

2 級 模 擬 問 題 ①

(第 2 問での出題を想定)

X株式会社では、備品をファイナンス・リース取引およびオペレーティング・リース取引により取得し、営業の用に供している。次の資料にもとづいて、下記の問いに答えなさい。なお、仕訳等における勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

【使用できる勘定科目】

普通預金、リース資産、リース債務、減価償却累計額、支払リース料、減価償却費、支払利息

1. リース物件の内訳

備品の名称	リース取引開始日	リース期間	耐用年数	年間リース料	見積現金購入価額	備 考
A備品	X1年4月1日	3年	3年	¥200,000	¥ 570,000	(注1)
B備品	X2年4月1日	8年	8年	¥300,000	¥2,200,000	(注1)
C備品	X2年4月1日	3年	7年	¥100,000	¥ 500,000	(注2)

(注1) ファイナンス・リース取引に該当する。

(注2) オペレーティング・リース取引に該当する。

- リース料は、毎年3月31日に1年分を普通預金より支払っている。
- 利息相当額は、リース料総額と見積現金購入価額の差額であり、利息を期間配分する場合には、リース期間で定額法により行う。
- ファイナンス・リース取引におけるリース資産の減価償却は、定額法(残存価額ゼロ)により行う。なお、記帳方法は間接法による。
- 当社の会計期間は1年で、当期はX2年度(X2年4月1日～X3年3月31日)である。

問1 A備品について、利子抜き法により仕訳を行いなさい。

- X1年4月1日(リース取引開始日)
- X3年3月31日(リース料支払日)
- X3年3月31日(決算日:減価償却)

問2 B備品について、利子込み法により各金額を答えなさい。なお、該当する金額がない場合は0と記入すること。

- X3年3月31日の貸借対照表に計上されるリース資産の帳簿価額
- X3年3月31日の貸借対照表に計上されるリース債務
- X2年度の損益計算書に計上される支払利息

問3 C備品について、X2年度の損益計算書に計上される支払リース料を答えなさい。

問4 A備品およびB備品について、利子抜き法を採用した場合の、X2年度におけるリース債務勘定に記入し、締切りなさい(英米式決算法)。

解 答

問 1 (A備品のみ)

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
①	リ ー ス 資 産	570,000	リ ー ス 債 務	570,000
②	リ ー ス 債 務	190,000	普 通 預 金	200,000
	支 払 利 息	10,000		
③	減 価 償 却 費	190,000	減 価 償 却 累 計 額	190,000

問 2 (B備品のみ)

- ① リース資産の帳簿価額 ¥ 2,100,000
- ② リース債務 ¥ 2,100,000
- ③ 支払利息 ¥ 0

問 3 (C備品のみ)

支払リース料 ¥ 100,000

問 4 (A備品およびB備品)

リ ー ス 債 務

月 日	摘 要	借 方	月 日	摘 要	貸 方
3 31	普 通 預 金	465,000	4 1	前 期 繰 越	380,000
	〃 次 期 繰 越	2,115,000		〃 リ ー ス 資 産	2,200,000
		2,580,000			2,580,000
			4 1	前 期 繰 越	2,115,000